

パブリックコメントで寄せられた意見と市の考え方

令和3年2月1日から3月2日までの30日間、「常総市地域公共交通計画（案）」に対する意見募集を実施しました。

寄せられたご意見及びご意見に対する考え方は次のとおりです。

受付日	受付番号	種別	管理No.	意見の要旨	意見に対する市の考え方	地域公共交通計画（案）の修正等
H33.3.1	1	公共交通への要望	①	予約型乗合交通ふれあい号の利便性を向上させてほしい（台数の増、土日の運行、市外病院への運行、ワゴン車両の導入）。	ふれあい号は市内タクシー事業者のご協力のもと運行しておりますが、ふれあい号の利便性を過度に追求すると、既存のタクシー事業が成り立たなくなり、ふれあい号を運行できる事業者が廃業してしまう恐れがあります。本計画を策定する趣旨は、市のあらゆる輸送資源を活用し、まちづくりと連携した公共交通体系を整備するものであり、特定の移動手段の利便性のみを向上させるものではありません。計画書68ページの「各モードの役割」に記載したように、今後は様々な交通モードの性質や特色を活かし、用途に応じた移動手段を提供できるように施策を展開してまいります。	計画（案）のとおりとします。
			②	コミュニティバスを運行してほしい（通勤・通学に利用でき、日中はコース別に週数回運行、停留所はできるだけ多く設置し、雨よけやベンチを設置）。	計画書71ページの「施策①地域特性に応じた公共交通サービスの提供」に記載しましたとおり、今後、市の公共交通を整備する中でコミュニティバスの運行を検討してまいります。市としましては、コミュニティバスは市民の日常生活のほか来訪者の出張・観光需要、また市内外への通勤・通学にも対応する移動手段として位置付けたいと考えておりますので、市民・来訪者それぞれに求められる利便性のバランスを考慮してルート等を検討してまいります。	計画（案）のとおりとします。
			③	最寄駅と自宅付近を結ぶ小型循環バスを運行してほしい。運行までは、駅と自宅間のタクシー補助券（高齢者）を要望する（ふれあい号では時間がかかってしまう）。	当市は約22,000世帯あり、それぞれの自宅と最寄駅を結ぶバスの整備は現実的に困難と考えますが、いただいたご意見は参考とさせていただきます。	計画（案）のとおりとします。
			④	石下駅一下妻駅間の路線バスは、こまめに停留所を設置してほしい	下妻市とは関東鉄道常総線で結ばれておりますので、路線バスの拡充よりも常総線を利用しやすい環境づくりが先決であると考えます。また、現在の地域公共交通の考え方としてはそれぞれの交通モードは競合するのではなく、お互いを補完しあうように整備する必要があります。	計画（案）のとおりとします。
		公共交通への意見	⑤	駅、商店街、文化施設、公民館、病院、学校等を公共交通で結ぶことで、高齢者だけでなく、できるだけ多くの人々が利用することで採算もとれ、街や市の賑わいが増し常総市が活性化する。また、高齢者は出かける機会が多くなれば健康長寿者が増え、医療費の軽減にもつながるかと思う。	ご意見のとおり、集客力のある施設等へ公共交通で行れば利用者の増加が期待できるものと考えております。また、公共交通を利用する利点等についても、周知に努めていきたいと思っております。	計画（案）のとおりとします。
		支援制度	⑥	現在、65歳以上高齢者が免許証を自主返納した際、市からデマンドタクシー券（2万円分）をいただけるのはありがたいが、乗用タクシー（民間）も含めて利用できるように拡大していただきたい。	今後、市の交通体系を整備していく中で、高齢者にとってよりよい支援制度についても関係部署とともに検討してまいります。	計画（案）のとおりとします。
		情報公開	⑦	市民からの意見聴取について 市民の意見を広く取り入れるべく、市職員や協議会委員が地区に出向いて意見を聞く場を設けてほしい。	市民の意見を取り入れることは重要であると認識しており、本計画の策定においては、市民3,000人にアンケート実施しております。しかしながら、地域公共交通は、市民、交通事業者、行政が連携・協働し、構築していくものであり、市民の意見や要望だけで成り立たせるのは非常に困難であります。持続可能な地域公共交通にするためには、専門的な知識やデータ、法制度等も同様に重要であると考えます。常総市公共交通活性化協議会では、国・県等の行政関係者や民間交通事業者、大学教授などに加え、市民の代表として各団体から会長等を選出し、貴重なご意見をいただいております。今後、市民の意見を広く聴取する際には、いただいたご意見を参考とさせていただきます。	計画（案）のとおりとします。
			⑧	協議会での協議内容や計画案、決定事項などの情報を、住民（特に高齢者）にもわかりやすい形でその都度知らせていただきたい。	紙媒体による周知は紙面の都合もあり、現状はホームページでの情報発信がもっとも効率的であることをご理解ください。ホームページには協議会の開催状況、資料、会議録等を掲載しております。引き続き、市民に伝わる情報発信を検討してまいります。また、ご意見につきましては随時お受けしております。	計画（案）のとおりとします。

参 考

パブリックコメント原文

1. 公共交通計画について

(1) 新たな計画ができるまでの間、現在運行しているデマンドタクシーを、より使いやすくすること

・混んでいて予約がしづらい状況を改善するため、台数を増やしていただきたい。特に通院での利用の場合、診療時間の遅れにより、帰路は一般のタクシーを利用せざるを得ないといった状況である。

・土日の運行

・市外の病院（筑波大学病院，つくば学園病院，筑波記念病院，西南医療センター病院，守谷第一病院等）や駅（小絹駅，みどりの駅）まで利用できるようにすること

・大きめの荷物も運べるよう，ワゴンタイプのタクシーを用途に応じ選択できると良い。

(2) デマンドタクシーに加え新たにコミュニティバスの運行を求めます。

・地域の交通として，路線バスのない地域にあっては，高齢者だけでなく，通勤・通学にも利用できることが望ましい。それには，通勤・通学時間帯の駅や高校等へのコースが必要となる。

・主に高齢者が利用することとなる日妻の時間帯は，小型循環バスにより，コース別に週数回の運行をしていただきたい。できるだけ多くの停留所を設置していただきたい。

・停留所には，雨よけやベンチを設置していただきたい。（場所の問題，安全性の問題もあろうかと思いますが）

駅，商店街，文化施設，公民館，病院，学校等を公共交通で結ぶことで，高齢者だけでなく，できるだけ多くの人々が利用することで採算もとれ，まちや市のにぎわいが増し常総市が活性化する。また，高齢者は出かける機会が多くなれば健康長寿者が増え，医療費の軽減にもつながるかと思う。

2. 路線バスの改善と駅までのアクセス

(1) 水海道地区の現状

・市外へのアクセスは，三妻駅，みどりの駅，中妻駅，水海道駅，小絹駅を利用できる。

・水海道駅—土浦駅間と岩井—守谷駅（きぬの里軽油）および石下駅—鬼怒中前間（主に小学生の通学バス）の3区間のみの運行しかない。

(2) 石下地区の現状

・市外へのアクセスは，玉村駅，石下駅，南石下駅を利用できる。

・関東鉄道バスは、石下駅―つくば中央ターミナル間は1日3往復走っている。下妻駅―石下駅間は、回送バスとなって空気を運んでいる状態である。

(3) 改善要望

・小型循環バスによる最寄り駅と自宅付近までの送迎。バスの運行前は、乗合タクシーでなく、駅と自宅間のタクシー乗車券の高齢者への補助を要望します。(乗合タクシーだと時間がかかってしまう)

・下妻駅―石下駅間の関東鉄道バスは、広域連携により停留所をこまめに設置していただきたい。石下駅からと下妻駅からの両方向から、つくば市の拠点病院に行くことや下妻市内の病院や商業施設等への利便性も図ることができる。

3. 高齢者が免許返納した際の特典について

現在、65歳以上高齢者が免許証を自主返納した際、市からデマンドタクシー券(2万円分)をいただけるのはありがたいが、乗用タクシー(民間)も含めて利用できるように拡大していただきたい。

4. 市民からの意見聴取について

(1) 市民アンケートについて

計画作成にあたり、市民3,000人にアンケートを実施・分析していることを知り驚きました。実施していただいたことは、評価できますが、これまで、そのような結果などを広報等で知らせていただいたのでしょうか。利用者となるデジタルに弱い高齢者にも優しい方法で、市のホームページだけでなく、知らせていただきたい。

(2) 地域内のフィーダーについては、きめ細かな検討が必要と思われる。住民(特に高齢者)の意見をより多く取り入れることを最優先としていただきたく、協議会とは別に意見を聞く場を設けていただきたい。このようなパブリックコメントでの意見募集では、住民の意見をくみ取るとは難しく、地区のシルバークラブに市当局や協議会委員が直接出向いての意見聴取など、丁寧な方法を求めます。

(3) 女性のひとり暮らしの世帯も多いことから、女性団体じょうそうに加入する地域の女性団体や民生委員を通して、そうした女性の意見を十分聞き取り計画に反映していただきたい。

5. 情報開示について

(1) 協議会での協議内容や計画案、決定事項などの情報を、住民(特に高齢者)にもわかりやすい形でその都度知らせていただきたい。